

# お、い ② 図書館 No. 14

## 司書の

## 社会的地位

今回は、司書と図書館の社会的地位について話し合いました。私達にとって司書は本に精通し、利用者の手助けをし、障害者へ適切な対応をし、学校への積極的な働きかけを行い、様々な情報を得る際のアドバイザーなど、本の専門家のイメージがあります。実に多岐にわたる仕事です。



行政は司書をどうとらえているのでしょうか。

五月の浦安図書館見学で知ったことですが、今述べたような取り組みをしている浦安その司書の地位は、一般職員なのです。松戸も同じく一般職員です。広く利用者の要望に応え、日々奮闘しているのに、評価が

低いのは真に残念です。

多くの企業で土・日・日休日が定着している中でも、図書館は土曜日曜も開いています。平日とは比べられない多く

の人が利用し、出勤している職員は、ほぼ全員が窓口業務に

つきサーブスに努めているそうです。市役所の土曜開庁に伴い、ようやく隔週週休二日になったそうです。行政は現場で働く人



人の使命感に甘えることなく、正当な評価、待遇で当るべきと考えます。真の評価に裏打ちされ、より高い自負が、市民サーブスの充実になると思います。

## 心の栄養育む

## 図書館

図書館自体の位置付けがどうなっているのか調べました。

図書館は、市役所構図の中で教育委員会、社会教育部所屬となっていて、文化ホール・公民館・市民スポーツセンターなどと同じ位置にあります。図書館は、図書館法で「国民の教育と文化の発展に

寄与することを目的とする」と定められてゐることを学習しました。今、図書館は単に本や資料を管理貸し出しをするだけでなく、生涯教育の場であり、社会教育を实践、具体化していく役割があります。図書館を独立した一つの部となし、市民の壽の教育機関として主体的に運営されていけば、従事する職員の意欲もより高まり、市民の生活に密着した図書館になると思ひます。私達の心の栄養を育む所になるでしょう。

行政面での改善を望みます。

(菊地)



## 浦安図書館見学記



緩やかなスロープを歩いて玄関ホールに立つと、児童室の入口では、私たちを待つていてくれたかのように絵本が並んで出迎えてくれました。書架が低いので、「ずー」と向こうにも沢山の本があるよ」と教えてくれて、いろいろ楽しんでみたいと安らいだ気分になっておりました。そも今日は見学会だから本の中は見えていられませんが、

ソファに掛けてゆっくりとページを繰っている最高の気分を想像しておりました。こんな幸せな気分になれる図書館が、一日も早く松戸に出来ることを願わずにはいられません。

学校と図書館がラックトックなどで結び合っていて、子どもたちの心に本の楽しさを知らせる活動が将来に行なわれていることなど、本を並べて待つているだけではない図書館員の心遣いのある活動を随所に感じる見学会でした。

(橋本)

発行 「おーい図書館」  
連絡先 青木 和子

松戸市稔台八三〇、六〇  
〇四七三(六七)五三八四